

スミス・カレッジにおける起業家活動・金融教育の取り組み —ヒーブロウ氏へのインタビューから—

Efforts to Support Students through Entrepreneurship and Financial Programs :
An Interview with Ms. Heavlow at Jill Ker Conway Center, Smith College

レーヌ・ヒーブロウ *, 西尾亜希子 **, 安東由則 ***

HEAVLOW, René C., NISHIO, Akiko, & ANDO, Yoshinori

安東 由則（監訳・編集）

ANDO, Yoshinori (Trans. Supervisor & Ed.)

目次

はじめに

1. Woman and Financial Independent program
の始まりと活動
2. 投資クラブの活動
3. 様々な体験型イベントへの参加
4. The Jill Ker Conway Innovation &
Entrepreneurship Center
5. プログラム参加者への期待

まとめ：「Heavlow 氏へのインタビュー調査
結果からの示唆」

資料 1 ・ 資料 2

* Program Director of Jill Ker Conway Innovation & Entrepreneurship Center, Smith College
(スミス大学：ジル・カー・コンウェイ センター プログラムディレクター)

** 武庫川女子大学共通教育部・准教授、教育研究所・研究員

*** 武庫川女子大学教育学部・教授、教育研究所・研究員

はじめに

・本インタビューについて

ここに掲載するインタビューは安東による 2015-2019 年度科学研究費助成事業（基盤研究C）「女子大学の存立意義とサバイバルストラテジー：日本・アメリカ・韓国の国際比較」（課題番号 15K04327）によって企画、実行されたものである、アメリカの名門女子大学スミス・カレッジ（Smith College）を対象とするインタビュー調査の一環として、スミスで行われている特色ある取り組みの一つとして Entrepreneurship や Financial Education などのプログラムに注目し、その取り組み経緯や実践内容、成果を尋ねたものである。現在、スミス・カレッジにおいてそのプログラムを提供しているのが Jill Ker Conway Innovation & Entrepreneurship Center であり、プログラム・ディレクターとしてマネジメントの中心的役割を果たしておられるのがインタビュー対象である René Heavlow 氏（以下、Heavlow）である。

Heavlow 氏へのインタビューは、2017 年 3 月訪問時に予定していたものであるが、思わぬ大雪に見舞われて大学が閉鎖となったため、インタビューは中止となった。そこで、もう一度の訪問調査をしたい旨をスミス・カレッジに打診したところ、大学および Heavlow 氏に快諾していただき、今回のインタビューが実現した（2017 年 11 月）。この訪問時に実施した複数のインタビュー調査については、既に『研究レポート』49 号に掲載¹しているものもある。本号では、Heavlow 氏へのインタビューを掲載する。

この 2 度目のスミス・カレッジ訪問に際しては、西尾亜希子共通教育部・准教授兼教育研究所・研究員と共同でインタビューを実施した。西尾研究員は、女子学生への金融教育に関する調査研究を継続して行っており²、以前よりスミス・カレッジが取り組んでいる金融教育や起業家教育についても強い関心を持っていた。折しも、2017-2019 年度の科研費研究費（基盤研究 C）「女子大学生のための「お金」の視点を取り入れたキャリア教育カリキュラムの開発」を獲得したところであり、この研究の一環として、スミス・カレッジにおいて共同でインタビュー調査を実施することとした。

・Jill Ker Conway Innovation & Entrepreneurship Center 及びスタッフ³

後のインタビューでも語られるが、今回訪問した Jill Ker Conway Center について概略を述べておく。スミス・カレッジにおいて 2001 年から取り組まれ、成功を収めた

¹ 安東（2019）『研究レポート』49 号に今回の調査経緯と概要（「スミスカレッジ調査目的・調査経緯とインタビューの解説及び補足」）、他の 2 つのインタビュー（「トランスジェンダー学生の受け入れ議論」「スミス・カレッジにおける学生支援の取り組み」）を掲載している。

² 例えば、西尾（2012）「女性のキャリアと金融リテラシー：スミス・カレッジの金融教育からの示唆」『研究レポート』42 号（87-105 頁）など。

³ <https://www.smith.edu/academics/conway-center/about> 及び <https://conway-connect.com/aboutus> など、Smith College の HP

“Women and Financial Independence (WFI) program”で十数年間培われてきた金融・起業家教育の実績を基に、現学長 McCartney 氏の後押しにより、2016 年、初の女性学長である Jill Ker Conway 氏の名を冠して創設された。このセンターは、スミスの学生たちが物事を発展的に幅広く考え、差し迫った問題への革新的解決策を開発する道具・方法を身につけるための大学におけるハブ (hub) として位置づけられた。そのためにこれまで培ってきた金融リテラシーや起業家能力の育成のみならず、創造的な思考や問題解決、学際的協働に焦点を当てた様々なプログラムや諸活動を提供し、能力の育成に取り組むことをその任務と定めた⁴。従来の機能が大幅に強化され、大学の中で大きな役割を担うこととなったのである。

当時のスタッフの構成は以下の通り⁵。センター長 (Administrative Director) は、2016 年のセンター創設時より就任している Monica Dean 氏で、ニューヨーク市立大学の the Lawrence N. Field Programs and Center for Entrepreneurship のセンター長として実績のある人物である。次に、プログラム・ディレクター (Director of Operation and Special Programs) として実務の中心を担うのが、今回インタビューを受けていただいた René Heavlow 氏である。氏はフルタイムの雇用で、最も学生たちと身近に接している人物であるとともに、スミスの卒業生でもある (2009 年入学 Ada Comstock Scholar Program 修了)。社会学 (経済社会学) の修士号も取得しており、現在も女性の起業や金融知識等に関する研究を継続している。よって、金融教育分野の知識や経験も豊富で、センター設立前の WFI プログラムについても従事しており、今回のインタビューには最適の人物である。もう一人、パートタイムのスタッフとして管理アシスタント (Administrative Assistant) がおり、様々な面でサポートを行っている。加えて 1 名の教授がパートタイムのディレクターとして深く関わっている他、インストラクターとして参加しているスミスの教授陣、さらに学生のインターンが 10 名前後おり、このメンバーで様々なプログラムの運営がなされている。

・調査の実施手続き及び本報告のまとめ方

インタビュー調査の実施手順は次の通りである。まず、安東がインタビューのアウトラインを作成し、それを西尾研究員が加筆・修正した後、両者で確認をした。作成したアウトライン (「資料 1」) として本報告末に添付) を、インタビューの 2 週間前にはメール添付にて Heavlow 氏に送付した。

調査当日、インタビューの実施に先立ち、調査目的の説明を行い、インタビューの録音と大学の雑誌への掲載許可を口頭にて確認した。インタビューは、事前に送付したアウト

⁴ Smith College HP (<https://www.smith.edu/academics/conway-center/about>)

⁵ Jill Ker Conway Innovation & Entrepreneurship Center (2017). *2016-2017 ANNUAL REPORT*.

ラインに沿い、Heavlow 氏に西尾と安東が質問をする形で進行し、回答内容によっては付加的な質問を行った。Heavlow 氏も、事前送付のアウトラインを十分に意識し、時には先回りをして回答をしてくれた。

本インタビューの原稿作成にあたっては、次のような手続きを取った。インタビュー内容において個人情報の秘匿など倫理に反することはないと判断したので、録音した音声データを業者に依頼してテキスト化した。「聞き取れなかった (Unclear)」とされた部分に関しては、音声を聞きなおすなどしてできる範囲で確認を行った。こうしてでき上がった英語原稿は、日本語への粗訳を業者に依頼した。翻訳された日本語原稿は、英語テキストを見比べながら、安東が加筆や誤訳の修正を行うとともに、用語や言葉遣いの統一を図った。また、今回の調査目的とは関連が少ない、あるいは本筋を外れた内容については削除して、会話の筋を分かり易くした。また、同じテーマの話が、時間を置いて語られた場合は、文脈に注意しながらも、内容を重視してまとめるようにした。今回のインタビューにおいては、ナラティブ・インタビューのように語られる順番や話者の語り方（語り口）よりも、語られた内容自体が重要であると考えからである。当然のことながら、語られた内容を故意に脚色するといったことは一切行っていない。ただ、会話であるので、言い間違いや文脈の中で解釈が曖昧なところもあった。文脈に合わせて解釈をした箇所もあるが、判断できない箇所については掲載しないこととした。

このようにして作成した日本語原稿と英語原稿を、西尾研究員にチェックをしてもらい、確認したものを掲載した。ただ、センターでは様々な取り組みが行われており、筆者の理解も十分とは言えない部分が多々ある。掲載内容において事実誤認や訳語の間違いがあるとすれば、安東の責任である。

インタビューだけではわかりにくい部分があるので、脚注をつけるなどして解説を加えた。インタビューに際していただいた、*2016-2017 ANNUAL REPORT, Global Entrepreneurship : Women's Entrepreneurship 2016/2017 Report* などの冊子や、*A WOMAN'S GUIDE TO PERSONAL FINANCE* (LIGHTBULB PRESS) といった資料、さらにスミス・カレッジの HP などを参考に説明を加え、内容を補足した。

スミス・カレッジにおける起業家活動・金融教育の取り組み —ヒープロウ氏へのインタビューから—

日時：2017 年 11 月 9 日（木）、9：30～10：30

場所：Jill Ker Conway Innovation & Entrepreneurship Center, Smith College, MA, U.S.A.

Interviewee：Ms. Rene Heavlow (Program Director, Jill Ker Conway Innovation & Entrepreneurship Center)

〔レーヌ・ヒープロウ（スミス大学：コンウェイセンター・プログラムディレクター）〕

Interviewer：西尾亜希子・安東由則（教育研究所研究員）… 以下、“質問者”と記載⁶

1. Woman and Financial Independent program (Center の前身) の始まりと活動 Ms.Heavlow (以下、Heavlow) Jill Ker Conway Innovation and Entrepreneurship Center

は、2001 年に開始された Women and Financial Independence program を基にして、次のステップに進むために創設されました。プログラムが立ち上げられた当時の学長は Ruth Simmons⁷で、彼女は教職員や学生らとともに、将来計画や物理的な配置などの観点からキャンパス全体を見渡し、スミス・カレッジが5年から10年後に向かうべき方向を提案していこうとしたのです。それを検討する中で、学生に対して個人の金融関連の教育を提供する必要性が出てきました。なぜなら当時、アメリカでは貯蓄率 (Saving Rate) がほぼ0%である一方、クレジットカードの負債は非常に高額となっていました。学生がクレジットカードを手にすることがとても容易となっていたので、学生のクレジットカード負債は多くの場合、学資ローン額を上回っていたのです。

しかし、長い間、それが何を意味するかを学生たちは理解していなかったのです。そこで、個人的なアドバイスでも、金持ちになる方法でもなく、自分のお金を管理する方法といった基本的スキルのような実用的なものを教育するプログラムが提案されました。そのプログラムの開始は2001年ですが、その前に、財源の算定やプログラムの方向性、誰が教えるのかなどを検討し、そのカリキュラムを開発するのに2年か

⁶ 今回のインタビュー実施者は西尾と安東の二人であるが、インタビュー項目などは共同して作成したことで、さらには読みやすさも考慮して、質問者に関しては二人を区別せず、“質問者”と統一して示す。

⁷ Ruth Simmons は1995～2001年までスミスの第9代学長で、初めてのアフリカ系アメリカ人である。スミスの学長を務めたのち、アイビーリーグの一つであるBrown大学の学長となり、2012年まで学長の職にあった。

かりました。大学の（単位を伴う）カリキュラムの外に置いた2つの中核コースから始めたので、学生は単位を取得できず、宿題もありませんでした。1つ目のコースは“生涯金融（Financing Life）⁸”、2つ目は“投資の原則（Principle of Investing）”としました。

“生涯金融”コースでは、資産や債務の概念、ローン（未来の自分から金を借りて現在のニーズを満たすこと）の意味、さらに貨幣の時間的価値などの内容が盛り込まれていました。例えば、クレジットカードの条件、この税法の除外事項や控除、規定の調整にはどのようなものがあるかを理解することが含まれます。これらすべてを通して、投資の基本を万遍なく学ぶのです。税法は膨大なものですが、保険についてもこのプログラムがカバーしています。なぜ自分が加入することがないかもしれない様々な種類の保険を知る必要があるのか、保険について考えるのはいつ頃が最適かを考えます。自宅所有権のファイナンスも同様です。自宅所有権は財産保有を始める最も簡易な手段の一つですが、誰にとってもそうなのか、将来、自分が害を被らないようにするにはどうすればよいか、さらには退職後の資金調達および投資の基本までをカバーします。

それが終了した後の春学期には、最後のセッションとして“投資の原則”の学習を開始します。このコースでは株式、保証金、上場投資、投資信託のすべて、それに関連する費用、意思決定をする方法等を学びます。初職で41,000～43,000ドルを得るとして、資産の分配方法をどのように決断するかなどを教えます。もちろん、私たちはファイナンシャル・アドバイザーではありません、これはあくまでも教育なのです。学生がいずれ決断を下す際に手助けしてくれる人に要求すべき内容を理解するため、あるいは、学生が投資やその他にしたいことをさらに学ぶためにも役立つ教育なのです。これらが主なコースです。⁹

2. 投資クラブの活動

Heavlow 私たちは、学生が実践的な経験に基づいた学習機会を確実に得られるようにしたかったのです。ここには投資クラブがあり、それは学生のための学生によるものです。私たちは指導教員を提供し、指導を行います。クラブでは、学生たちの費用をすべて負担しますが、クラブとして運営方法を決定するのは学生です。学生は、株式市場で投資された110ドルのポートフォリオ（運用株式の組み合わせ）からスタート

⁸生涯を見越した（借入れや投資といった活動を伴う）金融活動。

⁹これらのコースは、今日のセンターに受け継がれている。ここで Heavlow 氏が紹介しているのは現在、センターで提供されているカリキュラムである。後に、Conway Innovation & Entrepreneurship Center (CIEC) が提供するプログラムをもう少し詳細に紹介している。

し、これを保有していきます。その使命は、投資が学生たちにとって利益になることを学び、実践することでした。まず、株式や企業のリサーチ、投資先の決定の方法を学びます。その後、投資で得られた配当金が、四半期または年に1度引き出され、配当金の75%が学資援助オフィスに渡り、残りの25%が学生自治会に配分されて、学生が希望する学内の活動に役立てられます。つまり、ポートフォリオがうまく活用され、より多くの配当金を生み出すほど、大学でよりよい活動ができるのです。こうして学生たちは学習、投資などに加えて慈善活動も学んでいきます。学生たちがリズムをつかむまでに時間がしばらくかかりましたが、今では4つの業種に編成されています。

管理方法は次のようになっています。彼女たちはポートフォリオに25の株を保有し、現在その価値は180,000ドル（約2,000万円）をわずかに下回るほどです。つまり彼女たちはうまく運用しており、その資産運用委託では（内部資産運用委託というべきかもしれませんが）、証券を12ヵ月から18ヵ月単位で回しています。新メンバーの学生は何をするかという、以前からのメンバーによる株のパフォーマンスをただ見ているだけでなく、リサーチも行っています。ですから新人たちは、「この計画の対象期間内でこの株が他を凌ぐよい動きをしたいと思います。その理由はこうです。」などと提案をするなどしています。メンバーの提案をもとに株売買を行うのです。これはとてもよい学習経験となります。

質問者 1つのグループは何名で構成されているのですか。

Heavlow 年平均で40名程度の活動的なメンバーがおり、その数は常に変動します。秋学期（新学年）のはじめ頃は、学生たちは積極的にインターンや金融関連の職に募集しているため、少し少なめですが、その後、数は非常に増えます。今頃、学生たちは、お話ししたこれまでのポートフォリオに加え、今年の新たなポートフォリオを得たはずです。

・Divesting Endowment portfolio from Fossil Fuels（化石燃料産業からの投資撤退基金）

Heavlow スミス・カレッジの気候変動研究グループの学生たちが、提案をしてきました。化石燃料産業への投資撤退基金ポートフォリオ（Smith Divesting Endowment portfolio from Fossil Fuels¹⁰）に興味を示したのです。取り組むにあたり、何か課題はあるかと彼女らが尋ねてきたので、“トレードオフ（trade-off）”があると申しました。学生たちに資金を与え、学生はそれを従来のポートフォリオとは異なる組織に投

¹⁰ 欧米では、石油産業から投資を引き揚げようとする流れが、特に2014、2015年頃から急速に高まっている。The US Fossil Free CampaignやFossil Fuel Divestment: Colleges & Universitiesなど様々な組織があり、大きな影響力を持つに至っている。

資すること、そしてそれは社会的に責任のある投資ポートフォリオでなくてはならない、ということです。つまり、化石燃料から完全に分離されたものであるという注意事項さえ守れば、学生は何に投資するかを自由に決められるのです。

もし完全に Fossil Fuels（化石燃料産業）から脱却するとすれば、それはどのようなことになるのか、つまり人々の利益や財務決定にどのような影響を与えるのかを、規模を縮小した形で見てみようということです。現在このクラブには、何に投資し、何に投資しないのか、それを決める指針と自らのグループの編成のあり方について明確にすることを課題として与えています。それは非常に難しい課題で、学生たちはそれに試行錯誤しているのです。そうした試行錯誤の中で、彼女らは「この新ポートフォリオに何がふさわしいか考えてみよう」と誘って、スミス・カレッジが化石燃料から脱却し、気候変動とそれに関する諸々の事柄に積極的に関与しようとしている別のクラブ（Divest Smith Club）の代表学生を投資クラブへ勧誘したのです。それはやりがいのある挑戦です。彼女らはまだ何の投資もしておらず、検討中ですが、このような現実世界の問題に取り組むことは学生自身にとっては非常に素晴らしい経験であると思います。

たとえばボーイング社のように、より気候に優しい環境をつくる最前線にいる会社であっても、航空会社という化石燃料の大量消費者は完全に化石燃料から撤退することができのでしょうか。一方で、ボーイング社はカーボンフレンドリー（Carbon-friendly：二酸化炭素をあまり出さない）であり、全ての新しい航空機をカーボンフレンドリーなものにしようとしています。もしあなたの資産運用委託の中に化石燃料（関連企業）が全くなければ、直感でどうなると思いますか。フォローアップするのが非常に難しい資産運用委託となります。彼女らはそれを体験し、答えを見つけ出そうと試行錯誤しており、それはとても楽しいことなのです。

質問者 今までに利益目的で土地などへの投資を経験されたことはあるのですか。

Heavlow 従来のポートフォリオでは、そのような投資があったことは知っています。こんなことを言った学生がいました。「大きな利益が欲しいので、私たちは大きな収益を生む銃器やタバコ、化石燃料など様々なものに投資するつもりです。」彼女らのポートフォリオの出し入れを、私がすべて把握しているわけではありませんが、彼女らが取り組んでいたポートフォリオはそうでした。基本的にすべて順調で、違法ではありませんでしたし、児童就労問題などの問題は一切ありませんでした。しかし、今取り組んでいるこの新しいポートフォリオは逆で、素晴らしい学習機会なのです。取り組むには良い課題であり、自身のお金を使わずに、リスクを負わずに実際の投資の世界を学ぶことができるのですから、素晴らしい経験です。

これらはすべて WFI（The World Federation of Investors¹¹）の下での実践的な経験

です。私たちが Jill Ker Conway Center となったのは、ここで行う全ての活動に対して寄付金を募るためです。金融教育が、新なシャイニーペニー（Shiny Penny：魅力的な新規事業）であるとする風潮はすでに過ぎ去りました。今日の新たなキーとなる用語は“イノベーションと起業家活動”です。それらはこれまでずっと WFI が行ってきたものの一部です。起業家活動（Entrepreneurship）が大学に根付いていくための施設がこれまでなかったため、WFI のもとで行っていたのですが、私たちはこのコースを拡大し、そこに起業家活動やそれに関する活動を取り込んだのです。

3. 様々な体験型イベントへの参加：Draper Competition の実施

Heavlow 学生の体験的学習機会を取り入れるため、“売り込みコンテスト”を始めました。この Pioneer Valley¹² において起業家活動を促進するためのものであり、大学生および大学院生は4つの学内合同チームに分かれて参加します。彼女らは人前に出る機会をたくさん得られます。先週金曜日にこの合同企業集会有り、様々な大学から600名が集まりました。学生全員が「これが私たちの商品です」などと、自分たちのアイディアを売り込む「アイディア・ジェム（Idea Gems）」コンテストが開かれ、スミスから出場したチームのうち1つが3位となりました。これは上位10チームまで絞り込まれた後、その10チームが600名全員を前に売り込みを行い、上位3位を投票で決めるものです。様々なアイディアが出た中で、3位に入ったことは素晴らしいことです。スミスは大きな大学ではありませんし、ビジネス・プログラムもマーケティング・プログラムもないイベラル・アーツ・カレッジです。そんな中、彼女たちは自分のアイディアを主張する機会としてこれに出場したのです。

この集会はあくまでも、起業家活動¹³ とは何か、どのようにして参加できるのか、そのスキルはいかにして身につけられるのか、ということを学ぶためのものです。この領域についてのバックグラウンドがあるとは限らない学生に向けた入門編として開催されたものでした。

¹¹The World Federation of Investors HP（http://www.wfic.org/about_wfic.asp 及び www.wfic.org/wfic_organizations.asp）独立した非営利組織の株主連盟であり、投資家教育と株主支援を促進するために創設された。WFI は全国の株主連盟や投資家支援グループの構成員（個人、クラブの双方）により、投資家に対して役立つ助けを行なおうとするものである。1966年に設立され、1979年に公式に法人化された。

¹² スミス・カレッジが位置する Northampton を含む、マサチューセッツ州西部のコネチカット川流域地域を指して使用される。

¹³ スミス HP では、Being Entrepreneurial（起業家精神を持つこと）とは、モノの見方・考え方であり思考様式であり、センターは様々な課題に対する革新や価値創造を求める者を支援すると説明している。具体的には、起業家精神を発揮するのに必要な技能（リーダーシップ、レジリエンス、内省、マネージメント、コミュニケーションなど）を身につけ、共に活動し、考え出したアイディアを試してみる、そういった機会を提供しているとしている。（<http://www.smith.edu/academics/conway-center/entrepreneurship>）

その年の終わりに向けて、ビジネスプラン・コンテストである大規模なドレーパー・コンテスト (Draper Contest¹⁴) を実施します。これは全国規模のコンテストです。私たちがここで後援します。優勝賞金は 10,000 ドルで、去年は 100 を超える申込がありました。全国から 60 チームをスミス・カレッジに招待し、ベンチャーの事業計画概要や展示会場での審査員との対話をもとに、私たちが 1 位から 3 位を指名し、その後、彼らは審査員に向けて投資のプレゼンテーションをするのです。

質問者 そのコンテストには多数の企業も参加したのですか。

Heavlow 企業は参加せず、学生のみ参加します。学生たちは、私たちが実施するビジネスプラン・コンテストという集まりに参加したのです。(提案される) すべてのベンチャー (冒険的事業) は初期段階のものでなくてはなりません。

質問者 そうであっても、企業はそこで出されたアイデアを買うことができるのですか。

Heavlow おそらく買うことはできるでしょう。しかし、大学生レベルではまだ不十分で、まだそれほど優れた発想ではありません。企業が興味を持ちそのアイデアを買うまでになるには、まだまだ先は長いのです。私たちのコンテストに参加するには 100,000 ドル以上の収入、および 250,000 ドル以上の操業資金があってはなりません。なぜなら、このコンテストは投資を学ぶごく初期段階にある学生のための機会だからです。単にアイデアを持っていて、それに可能性があるのかどうかを確かめたいただけの人を求めているわけではありません。100 万ドルの収入がある人との競争を強いられ、学生たちが怖気づくことは望んでいません。このコンテストでは、それ以上先に進む必要がなく、学生たちがこの環境に触れることこそが目的なのです。

“授業で学んだことや学んだ経験を互いにどのように取り入れ、どのように問題を解決してアイデアを取り入れるのか、どのように人間に対する価値を理解し、新たなベンチャーをつくるのか”。私たちはこうしたことを学生たちに示したいからこそ、このコンテストを行っているのであり、結局これはリベラル・アーツ教育なのです。リベラル・アーツは単に知的活動 (生活) だと思われていますが、何らかの実用的なものと繋がっていることは、学生たちにとって非常に魅力的なのです。「今このアイデアが浮かびましたね、ではこれを現実の世界に取り入れることができる何かに変換させる方法を教えましょう」と学生に声を掛けることが私たちの役割であり、これが私たちの基本的な姿勢です¹⁵。

¹⁴ 正式名は Draper Competition for Collegiate Women Entrepreneurs。2013 年にスミスだけで始まり、年々参加大学を増やしていき、2017 年には全米から 26 大学が参加した。スミスの学生の参加者は 56 名。この年には、61,850 ドルの賞金や奨学金が贈呈されている。

¹⁵ Draper Competition 参加に至る 1 年間の取り組みの流れについては、資料 2 を参照のこと。

4. The Jill Ker Conway Innovation & Entrepreneurship Center

・センターの概要

質問者 これまでのお話の中でもでてきましたが、WFI の活動を引き継ぐ形で作られた、この Conway Center について、もう少し詳しくお聞かせください。

Heavlow Conway Center はイノベーションおよび起業家活動のためのセンターです。第一には、その資金供給者の名前、つまりスミス・カレッジ初の女性学長である Jill Ker Conway¹⁶ の栄誉を称えるために命名されたものです。第二に WFI が行ってきた活動を支援し、より機会を豊富に設けるなど、重要な教育的要素である金融教育を実行することを通して、イノベーションと起業家活動、つまり（生きていくうえで）リスクを取ることを教育を強く推し進めるためです。人は自分の財務状況を、あるいは自分が行う事業の財務状況を理解しなければなりません。どのように資金を分けて、まず何を先に進めるかを理解しなければならないのです。

女性と経済的自立プログラムなど、すべての計画、すべてのミッションを実行するために、センターとしてとても長い時間を費やしました。ここで私たちが行うことはたくさんあり、1 セメスターで 36 のイベントを開催しています。“生涯金融 (Financing Life)” だけでも前半に 6 セッション、さらに後半に 7 セッションあるといった具合で、たいへん活動的です。

質問者 このセンターにはどれくらいのスタッフがおられますか。

Heavlow 昨年（2016 年）新しく入った管理責任者が 1 名¹⁷、先ほど会われた事務スタッフが 1 名、そしてプログラム・ディレクターである私の 3 名です。さらに 15 名の学生インターンがいて、センターでは彼女たちが自立して活動できるようお金を支払って、訓練を受けさせます。現在私たちは、Jill Ker Conway Innovation & Entrepreneurship Center を、これからの 5 年から 10 年でどう（スミスの中に）位置づけていくのか、どのようにスタッフを編成するのか、そういったことを構想する戦略的な計画作成過程にあります。もう一人か二人、中心的メンバーを雇用することになるかもしれません。センターには他に、“生涯金融” を教える教授、“投資の原則” を教える教授らがいます。国際金融機関分野を専門とし、そうした機関に加わっている教授陣¹⁸ もいます。

¹⁶Jill Ker Conway (1934-2018) は女子大学が共学化の波に直面した困難な時代に、スミス・カレッジの 7 代目学長にして初の女性学長となり、1975 年～1985 年まで様々な斬新な取り組みを大胆に導入し、スミスをリードして今日の礎を築いた。著書として“A Women’s Education” (2001) があり、オーストラリアからアメリカに渡り、スミスの学長時代を含む人生の旅路を振り返っている。2013 年には、オバマ大統領から National Humanities Medal が授与された。

¹⁷Ms. Monica Dean の前職は the Lawrence N. Field Programs and Center for Entrepreneurship at Baruch College の管理責任者で、それ以前も女性の起業家活動のスキルを磨くための活動を行ってきた。UCB にて MBA を修得している。

センターは、正規カリキュラム外で運営するとしても、正規カリキュラムとしっかりつながっています。ここで提案されたアイデアができ上り、それを採用するか決める前に、いつも教授らに諮る必要はないのです。「ねえ、教授、こんなことをしてくれたら、お金を支払いますよ。これはビジネスですから」などと言って、少しでも引き受けることを気軽にしたりしています。起業家活動に関して言うと、こうした交渉は非常に大事なことです。何事にも敏感に素早く反応しなければなりません、私たちはそれができます。

質問者 ではあなたはとても忙しいですね。

Heavlow とても多忙です。しかし、他のやり方はないでしょうね。他の女子大学にも起業家プログラムがあることも承知していますが、それらはその大学のキャリア開発オフィスあるいはキャリア・センターが運営していることもあり、単独のセンターであるとは限りません。

ここにお示ししたもの（…ここで書類が提示された）は今私たちが行っている戦略的計画¹⁸の一部で、私たちの大学の状況を知るため、スミスと同等の大学と比較したものです。これまで明らかにしてきた調査内容を他大学と共有することに躊躇はありません。私が重視するデータは、スミスの比較対象になる調査対象の一部の難関大学のものです。分かったことは、社会的な起業家活動に焦点を当てる女子大学もありますが、中でもスミスが際立っているということです。

（プログラムの中身は）ほとんどは伝統的な非営利のものです。私たちは、学生は社会的正義あるいは社会的志向性を持つことができると考えています。国連の持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）に従うこともできますし、営利目的とすることも可能です。営利目的のベンチャーとしてアプローチするにしても、非営利企業になるとしても、結局は、維持・継続することができる方法を学ぶことになるのです。つまり、学生がやりたいことを拡張し、長期にわたって継続できるようにすることが重要であり、継続するためには、寄付をしたり注文をしたりしてくれる人たちにのみ頼るべきではないということを、学生がしっかりと理解するようになってほしいのです。

必ず学生と情報共有をしています。本学のセンターの最大の強みは、第一に単なる“イノベーションと起業家活動”を学ぶというのではなく、それらに強く結びついた

¹⁸ 中でも中心的な働きをしているのが、経済学を専門とし、センターの創設者（Founding Director）でもある Professor Mahnaz Mahdavi である。2001 年のセンター創設以来、プログラムをつくり、リーダーシップを発揮している。ただ、2020 年 2 月時点の HP にはこの教授の名前はなくなっている。

¹⁹ インタビューでは「これが、今私たちが提供しているもの、これが他の女子大学が提供しているもの、これが他のリベラル・アーツ大学が提供しているもの、これが本学と同等の難関大学が提供しているもの」と表を示して説明をいただいた。

“金融教育”の要素を取り入れている点です。なぜなら、これらの3つは共生するものと考えているからです。

デザイン思考のトライアングルをご存知ですか。Desirability（望ましさ／利用者にとっての有用性）、Feasibility（実現可能性）、Viability（持続可能性）のことです。有用性とはこのセンターにおける“イノベーション”、実現可能性とは“起業家活動”、そして持続可能性は“金融教育”に相当するのです（図1）。この3つを1つのセンター内で全て網羅しています。ですから、これらのスキルを学ぶために他所へ行く必要はないのです。私たちは、学生が確実にこれらのスキルを身につけてここを出ていけるようにしようとしているのです。金融教育にのみ興味がある場合も、新しいアイデアを引き出すことに興味がある場合も、ここで学べるのです。全体的なアプローチに興味がある場合も同様です。他大学に比べ、本学のプログラムの大きな強みはこの点であると思います。

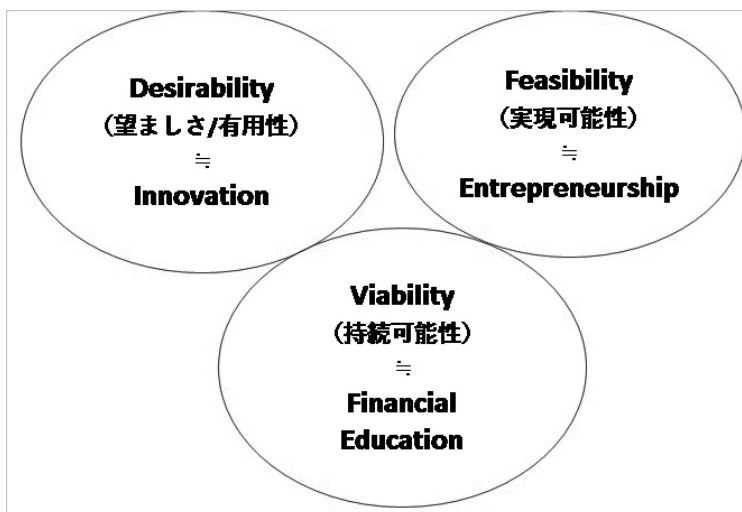


図1 デザイン思考のトライアングルとの関係

・センター運営／プログラムにおける困難点

質問者 では、センターの運営にあたって、難しい点、困難な点はどのようなことですか。

Heavlow センター運営で最も難しい点は、スミスは世界的なリベラル・アーツ・カレッジであり、非常に（学術の点で）活気のある大学なので、学業が最優先されるということです。そのため、私たちが行っていることを理解しパートナーとなって推進してくれる教授がいなければ、学生たちは集まってこないでしょう。もし学生たちが教授たちからこのプログラムの話を聞いておれば、このセンターが行っているプログラ

ムに参加し、利用したいと思うでしょう。これは私たちにとって、学生集めのより効率的な方法なのです。

しかしながら、「学生に起業家活動を教育することは、世界的なリベラル・アーツ・カレッジとしてのあるべき姿に反している」と信じている教授らが一方であり、この点が最も難しい点です。私は、リベラル・アーツのあるべき姿に反しているなどとは思いませんが。

質問者 そうした教授たちは、お金を稼ぐことを問題視するのですか。

Heavlow そうです。ただ言葉の印象が悪いただけなのかもしれませんが。実際、2006年に私がこの職に就いた時、起業家活動のセンターがあって、その名称には驚きました。その頃はまだ、“起業家活動”という言葉を抑さなければならなかったのです。私たちが作り出していったものではありませんが、その言葉を大っぴらに述べるのができなかったのです。なぜなら、教授たちは「ダメだ、ダメだ」と言うばかりでしたから。

質問者 起業家活動や金融教育といったことに偏見のある教授らがいたのですね。

Heavlow そうです。彼らは応用的で、実用的すぎるものは全て嫌っており、そうしたことはスミス・カレッジという世界的なリベラル・アーツ・カレッジのミッションではないと考えていたのです。そこで私たちはこんな指摘をしました。「ダンスは応用的、美術はある面で応用的、さらにスミスには工学部があってこれも応用的です。このようにスミスには応用的な分野がいくつもあります。人文学や社会科学分野のどなたかがあるアイディアを考え出し、それを応用する方法を編み出させてみてはどうでしょう。というのは、応用力を発揮している世界的なリベラル・アーツ・カレッジの実例があるのですから。このような試みは決して悪いことではありません。」

そこで私たちが行ったことは、少なくともオープンマインドな教授たちをセンターに招くことでした。彼らは必ずしも（私たちの事業を）容認してくれてはいなかったのですが、オープンなスタンスでしたから、私たちは彼らをメンターとして（プログラムに）招き入れました。

「学生のアイディアを発展させる手助けをしてもらえますか。もしそれが可能なら、疑問に答えたり、不完全な点やアイディアに対する考え方に助言をしたりしてください。私たちは、そのためにあらゆることで学生を援助するつもりです。」と伝えました。

今では約 30 名の教授たちが参加し、メンターとして喜んで取り組み、センターが催すイベントに参加したり、彼らの学生たちをイベントに送り出したりしてくれています。思うに、これが最大の課題でしたね。

質問者 30 名もの教授たちがセンターのプログラムに関わっておられるのですね。

Heavlow そうです。どうやって約 30 名に増えたのかをお話ししましょう。2004 年以降、起業家活動のパートナーとしてエンジニアリング（工学部）の教授メンバー²⁰ が一人いて、その彼女はさらに教授らを招き入れるためにたいへん尽力をしてくれました。私たちは教授向けの説明会を実施しました。例えば、教授らが自身の研究を提供するにしても、自分たちの利益になるものがあること、あるいは（研究などの）現実への応用を考えると私たちが彼らの手助けができることを示しました。その結果、彼らは私たちを受け入れてくれたのです。意外と思われるような人たち、例えばフランス語の教授が、私たちの活動に参加してくれたりもしています。学問分野を超え、手助けをしてくれる教員がいることは素晴らしいことです。

・センターの強みと課題

質問者 現在、センターの課題や強みといった点を、どのように捉えていらっしゃいますか。

Heavlow 今、センターが直面している課題は単純で、スペースの問題と正規スタッフの妥当な規模を検討することです。私たちは、現在のプログラムを実施する能力を持っていますが、成長、拡大していくために、さらなる教授陣やスタッフをどこへどう配置すべきかということです。

本センターのもつ素晴らしい点の一つは、“変える必要のある箇所がある”と感じると、迅速に動き、方向転換をする能力を持っていることです。ですから、何がうまく機能していないかがわかったならば、それを繰り返すことはしません。なぜ機能しなかったのかを見つけ出し、やり直します。つまり私たちは常に変化しています。もう一つの強みは、学生たちにとって“起業家的である”とはどんなことか、その意味を私たち自身が具現化していることだと思います。たいへん役立っています。

長期間にわたりプログラムを維持、発展させるために必要なことは何かと聞かれますと、答えは寄付金を得ることです。もし毎年の寄付金が得られず、資金が後どのくらいもつのか不確実であったなら、維持、発展することは難しかったでしょう。しかし今は寄付金があります。私たちは、スミスの中で今実施していることをどう維持できるかだけを考えるのではなく、5 年あるいは 10 年後にどう自らを位置づけ、どうなっていくべきかを理解しています。リベラル・アーツの学問だけでなく、イノベーションや起業家活動にも興味を持つ学生たちにとって相応しい場所でありたいのです。

²⁰ この教授が Mahnaz Mahdavi 教授だと思われる。WFI の教授ディレクターであり、Conway Center でも教授ディレクターを務め、中心的な役割を果たしている。また世界規模で起業家活動を長期的にモニターしている GEM (Global Entrepreneurship Monitor) という組織にも加わっており、彼女や Heavlow 氏らも参加して GEM の *Women's Entrepreneurship 2016/2017 Report* をまとめている。

金融教育はあらゆる学生に適用できるものだと思います。金融教育を学ぼうと思っているかどうかで学生に線引きをしようなどと言っているではありません。学生たちがどう思っているのであれ、すべての学生は個人の資産管理について学ぶ必要があるのです。もし学生がリベラル・アーツに関心があるなら、スミスに来ることは彼女らにとってボーナスとなりますし、イノベーションや起業家活動に興味があるなら、このセンターは役立つ場所なのです。スミスはデザイン思考（design-thinking）の機関をもち、工学プログラムをもっています。全員が一丸となり、学生たちはここで多くのサポートを受けることができます。素晴らしいです。

質問者 以前、WFI のプログラムには、ゴールドマン・サックス社が寄付をしていましたね。

Heavlow はい、とても助かりました。与えられた資金をほぼ使い果たして「さあ、どうやって継続するかを考えなければ」といった状況の 2008 年頃、ゴールドマン・サックス社から女性のための経済的自立プログラムの資金提供がありました。

質問者 今でも、ゴールドマン・サックス社から資金提供（寄付）が継続していますか。

Heavlow いいえ、その時一度だけです。スミスの卒業生が当時同社でマネージング・ディレクターだったので、彼女が強く推してくれたのです。ちょうどゴールドマン・サックス社が“10,000 人の女性プログラム²¹”を始めた時で、私たちへの支援は彼女にとっても都合の良いことだったのです。

・センタープログラムへの学生参加率

質問者 本当に様々なプログラムが提供されていますが、では、全体としてどのくらいの割合の学生がプログラムに参加しているのでしょうか。

Heavlow 年次報告書に書かれていますが、学内にいる学生²²の約 25%が毎年一つ以上の活動に参加しており²³、かなり良い結果です（図 2）。起業家活動イベントに複数回参加している学生もいます。このうち 8 % はイノベーションイベントと起業家活動イベントに、4 % は金融教育イベントと起業家活動イベントに、そしてまた 10% は金融教育とイノベーションイベントに、複数回参加しています。3 % の学生は 3

²¹ この“The 10,000 Women initiative”は、2008 年からゴールドマン・サックス基金によって始められたもので、今日も継続して行われている。プログラムを通じて世界各国の女性にビジネスや管理についての教育を提供して女性の経済的地位を高め、起業などを支援しようとするものである。
(<https://www.goldmansachs.com/citizenship/10000women/#> 及び
<https://www.goldmansachs.com/citizenship/10000women/about-the-program/about-the-program-main-page.html>)

²² スミスの学生数は約 2500 名前後である。留学等で in-campus の学生は 200 名程度減少する。

²³ 金融教育活動に参加した 18%の学生は、2 つ以上の金融教育イベントに参加している。さらにイノベーション／起業家活動に参加した学生の 26%はイベントに繰り返し参加している。

つすべてに参加していました。もちろん私たちは、複数回参加する学生の数を増やそうとしています。このように学生たちにサービスを提供しており、これらのイベントに来る特定の学生がいるのです。

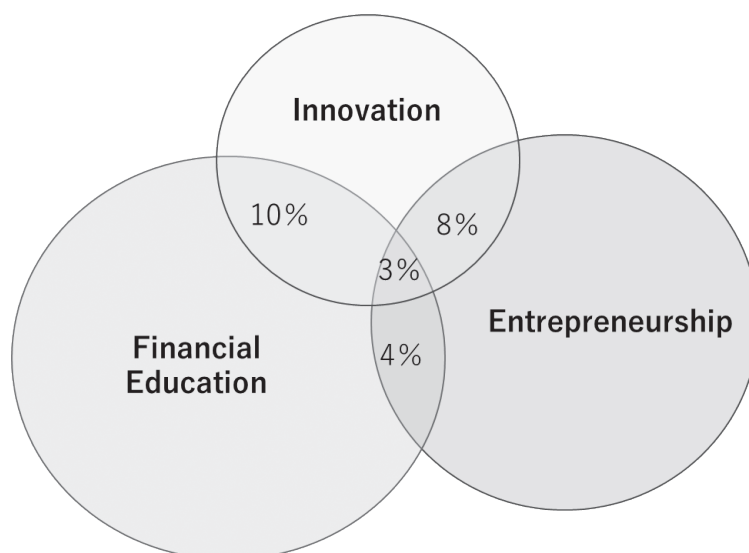


図2 活動に参加した学生の比率
(注：上記の10%、8%、4%は、3つすべてが重なる3%を含まない。)

Heavlow 棒グラフでは、イノベーション、起業家活動、金融教育の分野ごとに、何かの学年に人気かを示しています（図3）。4年生の約7割が“金融教育”に参加しているのは当然です。彼女らはもう直ぐ卒業して実社会へと旅立ち、両親が支払いをしてくれなくなり、どうすればよいかわからなくなるので、彼女らは確実に参加します。これが最大の参加数です。

1年生については、40%以上が“イノベーション”イベントに参加しています。それは高校でこのイノベーションに関する授業を取り入れていて、学生たちはあちこちでイノベーションについて話を聞いているからです。彼女らはこれに非常に興味をもち、多くが参加します。これにより、私たちが持っているもの、行っていることを学生に伝えやすくなります。1年生をうまく取り込むことができると、興味を継続し、毎年参加するようになり、上級生になるまでに、私たちが提供しているあらゆることを活用しています。

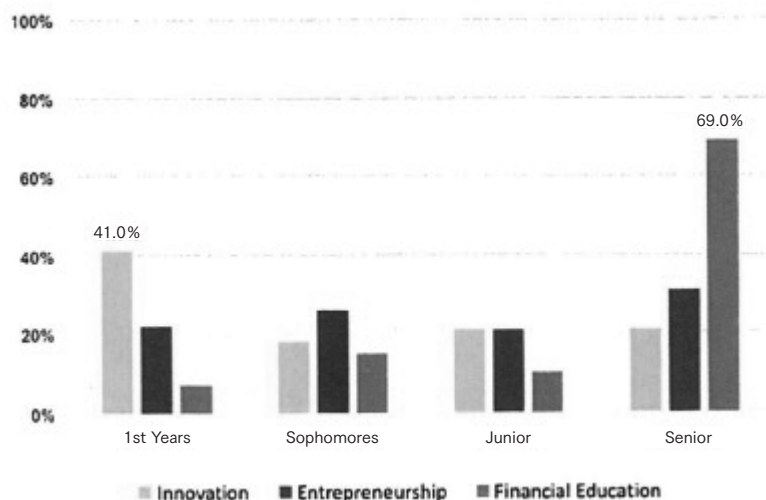


図3 学年ごとの3つのプログラムへの参加割合

・センター提供プログラムと正規カリキュラム

質問者 多くの学生が参加しますが、参加者にはカリキュラムの単位がどれほど与えられますか。

Heavlow 単位を与えるコースは3つあります²⁴。1単位コースが2つあり、それは起業家活動のプログラムで、国際金融機関分野を扱ったものです。これに欠かせない財務会計（Financial Accounting）コースも提供しており、それは4単位となります。登録時期は1年に1度、春にあり、たいいていはその学年の60名以上の学生が登録します。財務会計には多くのパートタイマーも登録しています。大学の学科カリキュラムでは通常は得られないので、学生たちはそれを活用しているのです。

質問者 センターでは、いくつのプログラムを展開していますか。

Heavlow 報告書には、センターが展開する正課兼用のイベントの全種類を記載しています。“生涯金融（フィナンシャルライフ）”は7週、“投資の原則”も7週です。実際よりずっと少なく見えますが、セメスターの始まりから終わりまで、週に少なくとも2つ、時には3つか4つのイベントがあります。たくさんのプログラミングをしており、私たちは違う次元にいるのです。

質問者 （授業期間が短く）授業を取りやすくなっていますね。

²⁴ インタビューではこのような回答であったが、パンフレットには5科目が挙げられている。Introduction to Innovation (IDP155)、Entrepreneurship in Action(IDP156)、Economics of Innovation(IDP158)、Introduction to Global Financial Institutions(GFX100)の以上4つが1単位、Financial Accounting(ACC223)のみ4単位とされている。

Heavlow その通りです。このプログラムでは、1単位コースのみであり、これが学生を惹きつける特徴の一つです。学生たちがワークショップなど正課兼用の活動に参加するのは、学業の時間を大きく削ることなく、予定に組み込めるからです。

プログラムのクラスで出たアイデアを真剣に発展させている学生がいた場合、私たちはその学生の指導教授と話し合い、彼女が特別研究としてそれを推し進めることができるかどうかを確認し、勧めるようにしています。学生たちは教授とともに取り組み、学科の履修単位を取得し、自分のアイデアを前進させていくのです。少数の実例の中に、私たちが学生たちとできるようになったことが蓄積されています。

・卒業生とのつながり、協力関係

質問者 スミスでは、学生と卒業生たちの結びつきはとても強いですね。センターも同様ですか。

Heavlow はい。ビジネスプラン・コンテストへの申込を査読する選考委員を務めてくれる卒業生、業界に関して学生に助言してくれるメンターや専門家として活動してくれる卒業生もいます。自身の経験を学生と共有するため、いつでも話しに戻ってしてくれる卒業生もいて、本当に助かっています。スミスの卒業生であることにみんな誇りを持ち、熱心に取り組んでくれます。そのため、卒業生らは学生たちと一緒に取り組み、学生たちを指導し、学生の質問に答えようとする意欲が非常に強いのです。私たちはとても素晴らしい卒業生ネットワークをもっています。それは必ずしも運営・発展のための寄付金集めに役立つという意味ではありません。時々私が感じるのは、スミスの卒業生は非常に優れた強い指導力を持っており、このことは卒業生から寄付金を得ることと同じくらい重要だということです。

質問者 センターでは毎年、卒業生が参加するイベントをたくさん開催されているのでしょうか。

Heavlow 時々卒業生が参加する学内のイベントを開催しています。しかし、プログラムは学生のためのものであり、学期中に卒業生がたくさんのプログラムに参加することは難しいのです。卒業生の何人かはスピーカーとして招待しています。学生たちとつながり、指導者の役割を果たし、教授陣と一緒に様々な方法で非常に意欲的に取り組んでくれており、素晴らしいです。

5. プログラム参加者への期待

質問者 スミス卒業後、どれくらいの卒業生が起業しているかわかりますか。

Heavlow 人数はごく少数です。私たちは賞金1万ドルの大きなコンテスト（Draper Competition）を5年間やってきただけです。今は過去の受賞者が卒業後に何をして

いて、結局どうなったのかを積極的に追跡しているところです。「すぐに起業家になることを期待して誰か他の人のところに働きに行きましたか」「自身のベンチャーを立ち上げましたか」「新規事業の業界で働いていますか」などの質問をして、人生の軌跡のようなものを知らせてもらうようにしています。その人数はごく少数だということは驚くことではありません。起業した卒業生を2～3人は知っていますが、実際の人数についてははっきりわかりません。高い割合ではないことは確かです。1～3パーセントの間です。

質問者 彼女らはまだ若いですからね。

Heavlow はい、とても若いです。コンペで賞金をもらいますが、それを元手にビジネスプランに着手し、ベンチャーを立ち上げる必要はありません。そのお金を学費でも何でも好きなように使っていいのです。彼女らは大学生ですから、私たちはそこまでを要求しません。ただ、将来どんな企業でイノベーターになるにしろ、そうなることを将来の有望な選択肢の一つとして捉えるにしろ、一度ある程度の技術や経験を身につけておけば将来役立つものなので、学生たちにはこうした機会に触れ、経験を積んでほしいのです。

プログラム参加者の顕著な特徴を申しましょう。報告書に専攻ごとの参加者を記載していますが、参加者はあらゆる専攻領域に及んでいます。私たちの任務は、神経科学（専攻）から未申告の者まで、参加者を増やす方法を考え出すことです。例えば、どのようにして人文科学の学生に、有望なアイデアをもっており、実現させることができるかもしれないと思わせることができるかということです。工学と経済は参加者が多い二大トップ専攻であり、工学と行政が協力しあうことは当然のことです。スミスの学生たちは政治的にもとても活発で、社会的公正のツールとなるものを見出すことは一部の学生のベンチャーには重要なことです。

それでも「ああ、参加者はほとんどがハードサイエンスをやっているんだね」と言う人がいるかもしれません。しかし、ここにはあらゆる専攻の学生が揃っており、学生たちは自らの領域を超えて学ぼうとする意欲をもっていることを雄弁に語っていると思います。

金融教育の特徴について言えば、自由で公平なものだと思います。私たちは商品を販売しているわけではなく、金融機関から資金調達をしてはいません。したがって、学生をある一定の方向へ無理に進ませようとしているわけではありません。学生に実践的な機会を提供し、彼女らが学んだことを実践に移し、彼女らが行っていることが意味あるものかどうかを検討し、やり直すことができるようにしているのです。それがこのセンターの他機関とは異なる点であり、強みであると思います。センターは金融教育を通して学生を訓練するプログラムを提供し、学生たちはワークショップで開

発させ、それを外へ出て実践してきました。

質問者 これらの活動を通して、学生たちが最も得られるものは何でしょう。

Heavlow 学生が得る最大のものの一つは、学生たちが自身のアイデアを発表することに自信を持てるようになることだと思います。彼女らはいわゆる“方向転換”することをそれほど恐れてはいません。そのため前に進み続けられるのです。障害にぶつかった時、ただ止まってしまうのではなく、学生たちは方向転換をして別の方向へと進みます。「オーケー」。「ちょっと待って」。「ダメだ。これはうまくいかない」。止めることもできれば、逆に進むこともできます。スミスの学生はリスク回避型とされていますがこれは間違いで、障害にぶつかって方向転換をすることが望ましくないとは考えていないのです。

このように考え続ける学生はより一層適応力を持ち、私たちとの協働だけでなく、自らの（専攻）コースや教室内での協働にどう適応させていけばよいかを学びます。彼女らはより自由に発言し、完全ではなく間違っているかもしれないけれど、自分たちのアイディを意欲的に共有しようとします。そうしたことを通して、改善が必要なことへのフィードバックが得られることを知っているからです。

私が思うに、成績のグレード（評価）Aが重要とされるこのリベラル・アーツが背景にあるため、間違ったことをしたと絶対に思われたくないのです。プログラムに参加する学生たちは、それを理解しています。前に進めることができる方法で、間違えることを学びます。これは最も素晴らしいことのひとつだと思います。もし学生たちが起業家にならなくても、高い適応力や方向転換する方法を学んでくれるならば、私は満足です。

質問者 最後に、アメリカの女性、スミスの卒業生たちはどのような領域に進出していますか。

Heavlow この最後の質問は難しいですね。合衆国では、女性の方がよりサービス思考が強いと理解されていますが、近年、従来の女性とは異なる領域に進出する動きがあります。この報告書でもおわかりのように、起業家になる女性たちはイノベーションによって突き動かされているのです。彼女らはそれを、家族を養う手段として捉える必要はありません。いつでも仕事を探すことはできるのですから。もし誰かがある領域に進み起業家になると決めたのであれば、その人はすでに起業家になりつつあります。なぜなら、それが彼女の選択であり、新しいことを行う革新的方法を掴んでいるのですから。

科学技術や製造業など、従来ではあまりなかった領域に進む女性が増えています。それは、以前にない方法で女性を支援するエンジェル・インベスターやベンチャー・キャピタリストが増えているからです。保育所を開設するにはそれほど多くの資金は

必要ないかもしれませんが、例えば衣類やその他の製造を始めるには驚くほど多額の投資が必要です。今や投資金は女性に回され、このようにこれまでなかった領域に向かう女性が増加しているのです。すべてが互いに結びつきあい、素敵なことです。実際に私たちのウェブサイト上で全報告を閲覧できます。

質問者 長時間にわたり、率直にお話しをいただき、ありがとうございました。

注：脚注にネットのアドレスを掲載しているが、そのアクセス日付については書き込んでいない。ここに掲載しているネットアドレスについては、全て 2020 年 2 月 28 日、29 日にアクセスし、所在を確認した。

（以上、文責：安東由則）

Heavlow 氏へのインタビュー調査結果からの示唆

西尾亜希子

スミス・カレッジはかつて「セブン・シスターズ」と呼ばれたアメリカ東海岸の名門女子大学7校のうちの1校である。セブン・シスターズは、1837年にマウントホリヨーク・カレッジが創設されたのを皮切り、1861年にヴァッサー・カレッジ、1870年にウェルズリー・カレッジ、1871年にスミス・カレッジというように、1800年代に次々と創設された。現在は5大学しか女子大学として残っていないとはいえ、世界中の優秀な女子学生が集う大学であることは今も変わっていない。女子大学としての姿を消したラドクリフ・カレッジはハーバード大学と吸収合併し、ヴァッサー・カレッジはイエール大学からの合併の申し出を断って単独での共学化に踏み切り、成功を収めており、このような歴史的経緯を見ても、それらの女子大学がいかに名門で、若い優秀な女子学生のみならず、多くの教育関係者らの関心を集めてきたかがわかる。

興味深いのは、そのような女子大学のうちの1校であるスミス・カレッジが、2001年に女性の経済的自立を重んじて Women and Financial Independence (WFI) を開設し、学生らに金融教育を提供してきたことである。開設に先立って、学内外の関係者との交渉などに相当な年月が費やされたことは想像に難くない。そうであるならば、スミス・カレッジは、1990年代後半には世界的名門女子大学として、学生らに単に高いリベラルアーツ教育を提供することだけを使命とするのではなく、学生らが生きていくための教育、すなわち生涯にわたって経済的自立を果たすための金融教育をも提供することをその使命と捉え、着々と準備をし、金融教育を実施してきたことになる。そして昨今ではイノベーションや起業家活動に関する教育を提供するなど、教育実践のかたちを変えながら、その使命を果たしている。

周知のとおり、医療技術の進歩や衛生環境の改善により、人々の平均寿命は伸び続けている。日本人の平均寿命は2010年現在で男性79.64歳、女性86.39歳であったが、2018年現在で男性81.25歳、女性87.32歳となり、2050年には男性84.02歳に、女性90.40歳に延伸すると予測されている（内閣府 2020）。さらに、世界の人々の平均寿命をジェンダーの観点から見ると、すべての国々で女性の平均寿命が長く、そのジェンダー差は2-11年である（厚生労働省 2020）。一方で、世界経済フォーラムが毎年発表する、世界各国の男女平等の度合いを指数化した「ジェンダー・ギャップ指数」によれば、調査対象のいずれの国においても、「教育達成度」、「ジェンダー間の経済的参加度および機会」、「健康と生存」、「政治的エンパワーメント」の4分野のうち、どのような分野においてもジェンダー・ギャップは存在し、多くの場合、劣位に置かれている（不利益を被っ

ている)のは女性の方である。いいかえれば、概して、女性は男性に比べ長生きするものの、教育、経済、政治の分野において不利益を被っている。具体的には、女性は男性に比べて生涯を通じて所得も年金も少なく、それを政治に訴える機会も少ないいため、状況がなかなか改善されないのである。

女性がどのような国や地域に住もうとも、程度の差はあれ、このような状況に置かれていることは否めない。アメリカも例外ではない。今回の Heavlow 氏へのインタビュー調査を通じて、スミス・カレッジの Jill Ker Conway Innovation & Entrepreneurship Center の使命は、そのような現状を当事者である女子学生に知らしめ、自分の生活は自分で築き、守ることの必要性を自覚させること、そしてそうした力を養うための基礎教育として金融教育をまずは提供し、その発展形としてイノベーションや起業家活動の教育をも提供することにあると捉えていることが何度も確認された。また、そのような使命は、非営利の活動やデザイン思考の有用性、実現可能性、持続可能性を重んじる姿勢や、カリキュラム構成、さらには使用されるテキストからも確認された。

テキストは、Heavlow 氏がインタビューの途中で、「プログラムではこの本をテキストとして使っているのよ。とても良い本だからおみやげに持って帰って」といって、安東教授と西尾のそれぞれにくださった、M. Wright (2001) *A Women's Guide to Personal Finance* である。同著は 2001 年に出版されて以降、2005、2012、2017 年に増刷されており、よく売れていることがわかる。全 160 頁、カラー刷り、厚さ 1 センチほどのテキストであり、構成(目次)は、「ライフ・ステージ」、「ゴールの設定と到達」、「金融の基礎を養う」、「予期せぬ障害」、「資産保全」、「家計の資産価値保全を享受する」、「ビジネスの運営・管理」となっている。具体的には、他者に経済的に依存する状態から経済的に自立する状態への変化の過程とその意味の説明から始まり、就職時、結婚時、出産時などのライフイベントとそれらに関わる金融情報や金融計画の立て方、資産運用、リスクとリターン、保険や税のしくみ、遺言や贈与、起業やその後の運営・管理など、取り扱い内容は多岐にわたり、情報量も非常に多い。学習内容についても、難しい面があることは否めない。しかし、全体にわたって挿絵、写真、解説コラムも多く、学生をはじめ、パーソナル・ファイナンスの初心者学習意欲を高める工夫がされている。スミス・カレッジの学生らは、専門教育の他、このような金融教育を受けているのだ。

そうとはいえ、Heavlow 氏がインタビュー中で再三述べているように、このようなプログラムを開設するまでの道のりは非常に険しく、苦勞も多かった。なぜなら、「学生に起業家活動を教育することは世界的なリベラル・アーツ大学としてあるべき姿に反している」、「応用的で、実用的すぎるものはすべて嫌っており、そうしたことはスミス・カレッジという世界的なリベラル・アーツ大学のミッションではない」と考える教員からの抵抗が非常に強かったためである。

しかし、そのような抵抗は、スミス・カレッジの一部の教員の間でかつて見られたと
いったたぐいのものではなく、今日にあっても、国や地域、共学や別学の違いなどに関係
なく、ある程度散見される傾向ではないだろうか。実際、今日の日本においても、「就労
所得（労働による所得）」を美德とし、利子や配当、賃料収入などの「不労所得」を得る
ことを好ましくないと考える人は少なくない（Nishio 2017）。特に、女性が「不労所得」
を得るための知識を得たり、行動に出ることを嫌う傾向は女性自身の間でも見られる（同
上）。そのような状況にあって、リベラル・アーツ大学として世界的に知られた名門女子
大学が女子学生のために「教育プログラム」として開設することを決め、実際にプログラ
ムとして運営してきたのだから、相当な抵抗があったことや、現在もあるであろうことは
容易に想像できる。

それにもかかわらず、WFI の創設管理者である Professor Mahnaz Mahdavi や、
Heavlow 氏をはじめとする多くの女性教員らは決して諦めることなくプログラムの開設
や運営を推し進めてきた。その背景には、おそらく、これまで多くの女性が婚姻状況に関
わらず（微々たる）就労収入の一部を「貯蓄」に回し、結婚すれば「（主に夫の就労収入
を主とする）家計の管理」を主な、あるいは唯一の経済活動として担うことを意識的・無
意識的に関わらず、受け入れてきたこと、そしてそのような姿勢では、めまぐるしく変化
する社会情勢に適応できないことを、女性であるがゆえに敏感に感じてきたことがあるの
だろう。母、姉妹、友人、学生（教え子）、あるいは自らも含め、女性を取り巻く社会の
変化に適応できなかった数々の女性の経験が、教育上の教訓と参考資料として教育実践に
活かしているようにも思う。

スミス・カレッジの学生は、そのような教授陣の尽力もあり、自らの専門分野のみなら
ず、金融、イノベーション、起業について日々学び、行動実践に移すチャンスを得てい
る。学生らは、WFI や Jill Ker Conway Innovation & Entrepreneurship Center による金融
教育に抵抗を示した数々の教授陣らの心配や批判をよそに、自らの専門分野での学びと金
融教育による学びをうまく融合させながら、将来を切り拓いているのだろう。

今日の社会が「ポスト近代社会」、すなわち「流動化、リスク化、不安定化、個人化、
再帰化、グローバル化等の諸要素が近代社会よりもはるかに高まった社会」（本田 2005,
21）といわれるようになって久しい。スミス・カレッジの Jill Ker Conway Innovation &
Entrepreneurship Center による金融教育は、女子大学をはじめ、ポスト近代社会にある学
生を対象とするすべての教育機関にとって、今後の教育実践を考える上で非常に示唆深
い。

引用文献

本田由紀（2005）『多元化する「能力」と日本社会．ハイパーメリトクラシー化のなかで』、NTT 出版。

厚生労働省（2020）『平成 30 年簡易生命表の概況』

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life18/dl/life18-15.pdf> 2020 年 3 月 1 日アクセス

内閣府（2020）『令和元年版 高齢社会白書（全体版）』

https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2019/html/zenbun/s_1_1_1.html 2020 年 3 月 1 日アクセス

Nishio, A. (2017) “Undergraduate student perceptions of personal finance in Japan: A comparison across genders and major fields of study”, *Widening Participation in the Context of Economic and Social Change*, Forum for Access and Continuing Education (FACE), London, England: University of East London. pp. 193-210.

Wright, M. (2001) *A Women's Guide to Personal Finance*, LIGHTBULB PRESS.

（以上、文責：西尾亜希子）

付記

この報告は、安東由則による 2015-2019 年度科学研究費助成事業（基盤研究 C）「女子大学の存立意義とサバイバルストラテジー：日本・アメリカ・韓国の国際比較」（課題番号 15K04327）及び、西尾亜希子による 2017-2019 年度科学研究費助成事業（基盤研究 C）「女子大学生のための『お金』の視点を取り入れたキャリア教育カリキュラムの開発」（課題番号 17K04900）による研究成果の一部である。

資料1 インタビューの骨子

Date : Wednesday, Nov.9, 2017 Time: 9:30-10:15

To Ms. Heavlow, Rene.

(Program Director : Jill Ker Conway Innovation and Entrepreneurship Center)

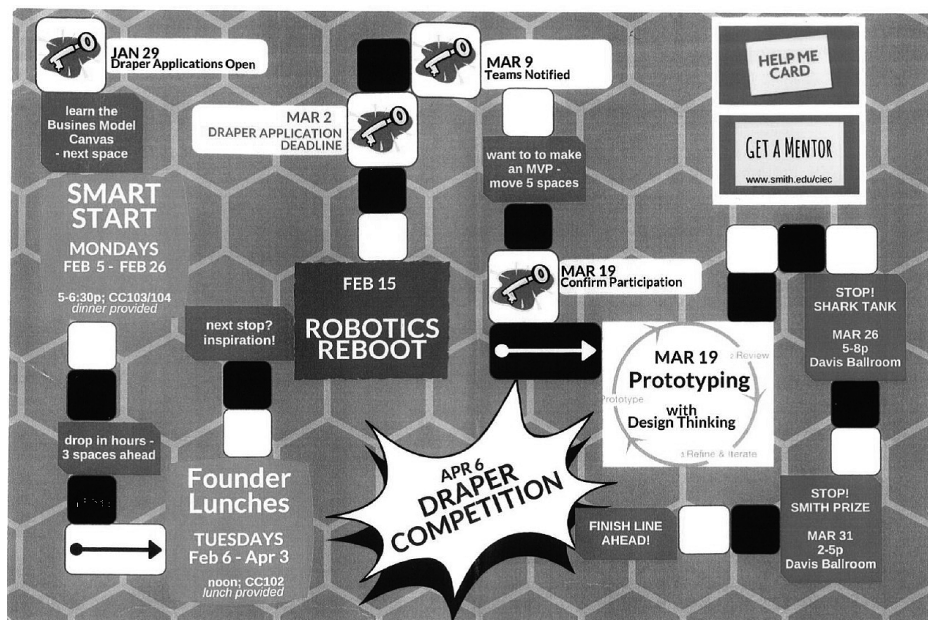
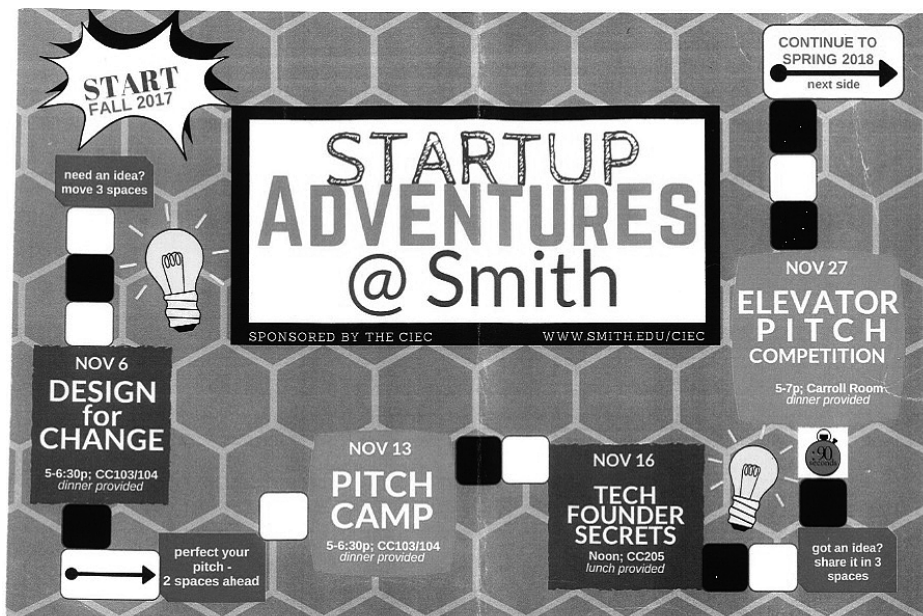
#1 Regarding center

- 1) Why and when did Smith College decide to found Jill Ker Conway Innovation & Entrepreneurship Center?
- 2-) Was the Center for Women and Financial Independence converted to current center?
- 2-2) Why was the Center for Women and Financial Independence originally founded?
- 3-1) Do you know any other women colleges/universities that have similar centers or programs?
- 3-2) What is the strongest point of your center compared to those run by other colleges?
- 4-1) What is the most difficult part in running the program or center? (hiring staff, recruiting students, maintaining the program and/or center etc.)
- 4-2) Are there any areas you feel the need of amendment in your program?
If 'yes', could you tell us where/what they are?
- 5) What do you think is necessary to maintain and develop the program for a long term?

#2 Regarding education

- 1) What percent of the whole of students participate in programs provided by this center?
- 2) What are the characteristics or specialties of Financial Education which this center offers?
- 3) Are there many graduates who become entrepreneurs after graduation or while in college?
- 4) Are there any distinctive characteristics among students who decide to register your program?
- 5-1) Are there any moments you feel that the programs are effective for students?
If 'yes', could you describe those situations for us?
- 5-2) How do you think about students change after completing the program compared to before registering the program?
- 6) In Japan, women entrepreneurs tend to be active in the fields of child-care, aesthetics (anti-aging in particular) , and health. How about in US? How about the graduates of Smith College?

資料2 Draper Competition までの Startup Adventures 年間計画 (2017 - 2018)



※ Jill Ker Conway Center が作成した、1 年間の学びのチャートポスター。

CIEC (Community for Innovation of Education and learning through Computers and communication networks) の支援を受けていると記載されている。